

臨時休校による自宅学習期間が長くなり、計画的に学習を進めることや、規則正しい生活リズムを保つことが難しくなっている人もいるかもしれません。本来学校の授業において学ぶべきところを、自学で行わなければならないのは、非常に苦しいことでしょう。しかし、これからの世の中には、このような逆境を自分自身の強い意志やさまざまな工夫によって乗り越えていく力が求められています。この状況を前向きにとらえ、与えられた課題を解き進めていくのはもちろんのこと、自己の苦手分野を補強し得意分野を強化する時間に充ててくれることを願っています。皆さんは、すでに受験生としてのスタートを切っています。最大の敵は自分自身（の怠け心）だとよく言われますが、適宜リフレッシュする時間を設けながら、学習を進めてください。実施予定だった学びみらいPASSは、5/11（月）～12（火）に延期となります。また、5/22（金）～23（土）には、進研共通テスト模試が予定されています。今まで受けた模試の復習を丁寧に行い、弱点を補強した上で試験に臨んでください。

今回は、「共通テスト」や大学入試の種類について紹介します。詳細は、6月に配付される『進路の資料』の「令和3年度 入試ガイダンス」や「学校推薦型選抜・総合型選抜」を確認してください。

【共通テスト実施に伴う変更点】

①数学Ⅰ・数学Aの試験時間が60分から70分に延長される。

問題文の読み取りに時間を要する問題、「正解をすべて選べ」など選択肢の吟味が必要な問題、身近な課題解決に数学の知識を活かす問題など、新傾向の出題が予想される。

②英語の配点がリーディング100点、リスニング100点となる。

各大学が自由にリーディングとリスニングの得点比率を指定できるため、その影響は大学により異なる。リスニングの重要度は大学によって差があり、早めに調べて学習計画を立てることが求められる。

※どの科目においても、思考力・判断力・表現力を発揮して解く問題が重視されるため、知識の丸暗記だけでは対応できない。

【大学入試の種類】

①学校推薦型選抜（旧推薦入試）

大学が求める出願条件（学業成績、生活・出席状況、特別活動の実績等）を満たした上で、学校長の推薦を必要とする入試である。小論文や面接（口頭試問を含む）等により総合的に評価し、入学者を選抜する。

②総合型選抜（旧AO入試）

大学が提示する「アドミッションポリシー」に適合していることが重要となる入試である。学力だけでなく、大学で学びたいという強い意欲、学部・学科への適性、特技・資格など受験生を多面的・総合的に評価して選考する。提出書類（志願理由書、自己推薦書等）をもとに面接（集団討論）、小論文、実験（レポート）、プレゼンテーションなどを行い、時間をかけて学部・学科にふさわしい人物かを審査し合否を決める。学力を把握するために、共通テストを導入する動きも拡大している。

③一般選抜

国公立大学では、前期試験（2/25～）、中期試験（3/8～）、後期試験（3/12～）の順に行われる。中期試験を実施する大学は限られるため、受験の機会は前期・後期の2回というのが一般的である。

私立大学では、受験科目の多様化や受験機会の複数化が進んでいる。受験のピークは2月上旬から中旬にかけてであり、地方入試を行っている大学もある。受験スケジュールの立て方が大切である。